

蒸し暑い夜、窓を開ければカエルの大合唱。いつもの夏がそこまで来ている気配です。

毎年6月は村が出資する第三セクターの決算期。令和3年度決算が出揃いましたので各社の決算状況を報告します。

1) **株式会社東白川**は、誘致企業である岐阜部品様とマツオカ様の社屋、工場、店舗を賃貸する事業と賃貸住宅、エコトピア住宅の管理を事業としており、順調に運営が来ています。本来なら村の予算が必要なところをこの会社で運営の肩代わりを行っています。昨年10月から社員1名を雇用し、令和3年度は472千円の赤字決算でしたが問題のない決算と言えます。

2) **みのりの郷東白川株式会社**は、水稻では村の約半分の水田の農作業を農家や集落営農組織から受託するとともにライスセンターの運営も行っています。また、白川茶については茶産地構造改革の中心的役割を担っています。その他、自社茶園での茶生産、野菜生産、しめ縄用ワラの生産販売を行っています。令和3年度は、コンバインなど大型農業用機械の修理費が約500万円かかったことなどから、979千円の赤字を計上するに至りました。

計画的な農業用機械のメンテナンスの実施と更新が課題です。また、耕土の状態の悪い水田の計画的な整備も村と一体になって進める必要があります。

3) **株式会社ふるさと企画**は、令和2年度にコロナウイルス感染症の影響を受け誘客事業が不採算に陥り、会社の事業運営が困難な状況となりました。そこで経営再建のための専門委員会を設置して検討を重ねた結果、「選択と集中」をキーワードに誘客事業から撤退、業務内容をトマトジュースの製造販売、トマトの生産、薪販売などに絞りこみました。

また、改革第二弾として令和3年10月から、社長の交代を含めて人事の刷新を行い経費の削減を徹底して行いました。その結果、しっかりと利益を生める体質になり、令和3年度は村の人件費補助を除くと400万円台の黒字決算が出来ました。

再建に関し誘客事業の企業誘致やトマトの生産拡大などに御協力いただいた皆様の努力の賜物であり感謝しています。

4) **有限会社新世紀工房**は、村の特産である白川茶の販売と村の顔である道の駅の営業に全力を挙げて取り組んでいますが、白川茶の販売ではコロナ前に戻りきる事が出来ず苦戦しています。フレッシュ便事業からの撤退と杜の工房部門の賃貸料の減収はあったものの、道の駅の販売が前年比104%と増加するとともに経費の節減に努めた結果、約210万円の黒字決算となりました。しかし、これまでの借入金の額が大きく、毎年の返済を金融機関の協力で先送りしながらの営業が続いていますので、今一步の改革が必要と考えています。

以上、各社とも雇用の確保を含め村の経済振興に大きな役割を果たしている会社ですので、今後も健全経営を目指し努力してまいります。

新型コロナウイルス感染症は、新規感染者数や療養者数が増えつつあり、夏休みを控え人流や経済活動が活発になる季節で心配をしております。引き続き新型コロナウイルス感染症の基本的な感染防止の徹底と熱中症への対策も忘れることなく健やかに過ごしてください。

令和4年7月

東白川村長 今井俊郎